

南沢支流ラの沢(仮称)

1987年9月15日

山本不動尊から今は荒れ果ててしまった近津林道南沢支線を歩く。1時間30分かかってラの沢(仮称)出合へ。出合は平凡で、倒木が折り重なっている。八溝の一般的特徴であるが、侵食が進み、深いV字谷となっている。7:00遡行開始。

すぐ5m 2段の滝。ホールド豊富で、楽に直登できる。ここを越すと、一時山腹の傾斜が緩くなり、ホッとした気分になる。このあとも3~5mの小滝が出てくる。いずれも風化の進んだ花崗岩の滝で、ホールド豊富。楽に直登してゆく。

小滝帯が終ると、もう源流。落葉が厚く積もった中を細々と流れる状態となる。そして岩質が第3紀層に変わるとボロボロの岩屑の詰まった流れとなり、最後は急峻なルンゼ状となって山腹に突き上げていた。遡行終了7:00。(

[タイム] 出合(7:00)→遡行終了(7:30)

南沢支流ムの沢(仮称・下降)

1987年9月15日

ラの沢(仮称)との間にある尾根上でひと休みしたあと、7:45下降開始。落葉の積もった急峻な斜面を、グリセードのような感じで下るとすぐ源流で、細い流れが始まる。岩質はと見ると花崗岩。滝が期待できると思うまもなく5mの滝。若干ナメ状で、クライミングダウン。幸先が良いと喜んだが、滝はこれでおしまい。このあとは深いV字谷だが、傾斜の緩い沢筋となって、小さなナメが出てくるだけで、南沢本流に出てしまった。(記

[タイム] 下降開始(7:45)→南沢本流(8:00)

